

千葉県 NEWS

CHIBA CANCER CENTER NEWS

がんセンターニュース



第50号

令和4年5月18日発行
発行/千葉県がんセンター

基本理念

私たちは、心と体にやさしく、希望の持てるがん医療を提供します。

巻頭言

令和4年度をむかえて

— 「てんでんしのぎ」を踏まえて—

病院長 飯笹 俊彦



新年度を迎えるにあたってご挨拶を申し上げます。
千葉県がんセンターでも、新規採用や異動も含め多くの方が新しい職場についております。異動者には早く業務を覚え、他の職員には業務の停滞がないよう指導しております。人事異動はがんセンターのさらなる発展のために推進しなければなりません。患者、ご家族の皆様には暫時業務の遅延などご不便おかけいたしますが、安全を担保し誤認など起こらぬよう努めてまいりますので、何卒ご理解をお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は第6波が漸く落ち着きをみせてきておりますが、終息にはまだ時間がかかるものと推察されます。当院でも一病棟閉鎖し、一部スタッフを新型コロナウイルス感染症の臨時医療施設に派遣しております。早期終息を願いワクチン接種にも積極的に協力し、感染管理部を中心として面会制限、検温、アルコール消毒の徹底など感染症対策に取り組んでいるところです。

東日本大震災、台風直撃やさまざまな異常気象、新型コロナウイルス感染症蔓延など、最近10数年、私共は未曾有といわれるような体験を繰り返してまいりました。さらに今般まさかと思っていたウクライナ侵攻がはじまりました。ウクライナの置かれている状況は我が国でも類似する部分が多々あり、殆どの世代が戦争を知らない我々日本人にとって、この事態は衝撃だったのではないのでしょうか。第二次大戦後、朝鮮戦争あるいはベトナム戦争でも我々は直接戦争に巻き込まれることはなく、我が国に平和憲法がある限り戦争など起こるはずがないと呑気に考えていたのかもしれませんが。しかしそれは保証のない幻想であり、様々な安全保障の必要性とともに危機管理がこれほど重要なテーマになっているのは戦後初めてではないかと思えます。

私の地元では「銚子の川口てんでんしのぎ」という言い伝えがあります。銚子の川口（利根川河口）は日本三大海難所の一つ、過去多数の海難事故が発生してきました。「てんでん」は各自、それぞれということで、意味は「利根川河口では周りの船が転覆しそうになっても手を出さず。自分の船は自分で守れ。」ということです。東北でも「津波てんでんこ」という同様の言い伝えがあるといえます。これをよく薄情と誤解される方がいます。しかし東北の震災でも多くの方が地震そのものの被害は免れながら、家族、知人を探しに行つて津波の犠牲になられました。病院では患者さん第一です。しかし大震災、洪水、大規模感染症などの危機管理にあつては、まずは自分の身を守らなければなりません。自身の安全を確保したうえでの周囲に対する配慮でなければ、共に犠牲になってしまう可能性が高いのです。そのためには日頃から各個人で当座の危機が火、水あるいは破壊なのか、どのような避難経路をとるべきか、代替手段はないのかを考えておくことが大切なのではないでしょうか。行政や病院から提示されたハザードマップや避難経路を確認していることは当然で、自分が現在いる場所でいかに身を守り行動するかについて考えておくことが重要なのだと思います。職員一人ひとりがこのような意識を共有している病院とそうでない病院では明らかに救える命に差がでることと思います。本年度はBCP（Business continuity plan）を踏まえ、千葉県がんセンターを危機管理に強い病院にするべく職員ともども取り組んでゆきたいと考えております。

臨床の現場から

がん薬物療法センター

外来化学療法科 部長 辻村 秀樹

がん治療の柱のひとつである「化学療法」は、最近「がん薬物療法」と呼ばれるようになりました。それは、古くから使われている抗がん薬に加え、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬（免疫療法）など、薬効の異なる様々な「くすり」が開発され実用化されているからです。治療成績は日々向上しており、多くの患者さんに恩恵をもたらしています。

さて、当院のがん薬物療法の約80%は通院で行われています。つまり、「日常生活を営みながら治療を受ける」時代になっているのです。そのうち、注射薬による治療を行う場所が、「がん薬物療法センター」です。以前は「通院化学療法室」と呼ばれていましたが、

新棟への引っ越しを機に名称も刷新しました。新しいがん薬物療法センターはとにかく広く、端から端まで65mあります。ここに52台のベッドが並んでおり、ゆったりとした空間はプライバシーにも配慮されています。

がん薬物療法成功の鍵を握るのは、副作用の克服です。薬の種類が増えている一方で、副作用も複雑になっています。患者さんごとに異なる副作用をどう乗り切るのかは、私たちにとって大きな課題です。がん薬物療法センターには、がん治療のプロフェッショナルが数多く働いています。そして、職種の垣根を越えて協力し合い、チームとして患者さんを支えています。くすりの専門家である薬剤師は、自作のカレンダー式資料を使いながらこれから起こる副作用と対策をわかりやすく説明しています。食事のプロである管理栄養士は、治療中でも美味しく、を合言葉に患者さんに合わせた栄養指導を進めています。そして、幅広い業務を支える看護師は、治療中に事故が起きないように細心の注意を払いながら、療養生活全般におよぶアドバイスをしています。頼りになるチームですので、治療中に気になることがあればご相談ください。



がん薬物療法センター

地域連携室だより

新年度にあたり地域医療連携室のご紹介

地域医療連携室 看護師長 福水 有美子

2

2020年10月開院の新病院に患者総合支援センターが新設され、地域医療連携室はその一部門として多くの業務を行っています。メンバーは、鍋谷室長（診療部長：食道・胃腸外科）、この4月から師長として担当することになりました福水、吉田看護師と、6名の事務スタッフです。どうぞ宜しくお願い致します。

当院は地域の先生方からの紹介患者さんが大多数です。緊張し不安のある患者さんも、紹介元の先生も、「千葉県がんセンターで良かった」と少しでも感じていただけるように、出来るだけ早い適切な初診枠の予約をお取りしています。また、がんの治療方針は、患者さんの全身状態やがん以外の併存疾患も考慮して決定されます。当院以外の医療機関で診療を受けている患者さんも多くいらっしゃいます。他院に診療情報を送る、また他院からの診療情報や資料を受けて担当部署に届けるなどの業務は、初診時から当院の医療スタッフ間で共有すべき情報に繋がり、一人の患者さんに適切な医療を提供するために欠かせません。大切な患者さんをご紹介いただいた先生に診療経過をご報告する返信の重要性も高く、多忙な医師の返書管理も重要な業務です。



さらに、胃がんESD・大腸がん・前立腺がん・婦人科がん・乳がん・緩和ケアの6診療科で、当院と地域の先生方とで一人の患者さんの診療を継続的に共有するためのクリティカルパスの運用と各パスの研究会開催の事務局を、地域医療連携室が担当しています。各研究会では、最新の知見を踏まえたパスの見直しやエキスパートの講演などを通じて、正確な情報交換を担保したがん患者さんの効率的な診療のシステム作りをしています。

コロナ禍で機会を持てなかった顔の見える交流を今年はぜひ実現させて、地域の先生方との信頼関係を高め、多くのがん患者さんに最適な治療を受けていただけるよう、心を込めてお手伝いさせていただきます。是非お気軽にご相談下さい。

治験の略語：「SMA」

治験事務局 石原 加那絵

SMAとはSite Management Associateの略で、治験事務局担当者とも言われ、治験に関する事務的業務を全面的に支援しています。治験事務局担当者は、治験担当医師などが治験をスムーズに行えるよう、治験に必要な書類の作成や管理、治験審査委員会（安全性、倫理性、科学的妥当性などを審査する委員会）の運営サポートを通して、治験依頼者（製薬会社など）と医療機関（病院）の橋渡しとしての業務をしています。

治験アップデート

治験臨床研究センターでは募集中の治験等の情報を提供しています。概要は以下のとおりですが、詳しくは当センターのホームページをご覧ください。

現在募集中の治験情報 R4/3月末時点での募集中試験数は36件

①胃がん	2件	④前立腺がん	4件	⑦乳がん	8件	⑩骨髄線維症	2件
②胆道がん	2件	⑤尿路上皮がん	3件	⑧頭頸部癌	2件	⑪多発性骨髄腫	1件
③大腸がん	4件	⑥膀胱がん	2件	⑨リンパ腫	6件		

当センターでは以下の治験を実施しています

ホームページアドレス

<https://www.pref.chiba.lg.jp/gan/riyo/kanja/chiken/jissijyoukyou.html>



看護の現場から

周術期管理センター

手術看護認定看護師
藪下 美紀

2

2022年2月1日に患者総合支援センター内の一部門として周術期管理センターが開設されました。現在は、手術を受ける事が決定した術前の患者さんに、入院前の外来通院時から多職種によるチームで介入しています。

患者さんは、主治医から手術に関する詳しい説明を受けた後に、当センター（周術期外来）にいらっしゃいます。ここでは、受ける予定の手術術式と麻酔の方法を確認し、現病歴、既往歴、手術歴、現在の内服薬、手術に必要な諸検査の結果等を確認します。検査の不足や併存疾患のコントロールが不十分な患者さんの場合は、追加検査の実施や手術に向けた併存疾患のコントロールを主治医と早

期に相談し検討します。また、麻酔科医師の判断が必要な際も、事前に麻酔科医に相談し指示を仰ぎます。

最近では、患者さんの内服薬はジェネリック医薬品を含めとても複雑で、術前に中止が必要な薬剤を正確に患者さんにお伝えし、止めなければなりません。患者総合支援センター専従薬剤師に協力していただき、継続薬と中止薬を確認しています。

禁煙や禁酒、術前ダイエット等の体重管理が困難な患者さんにも、可能な限り達成可能で具体的な目標設定を行い、手術に向けて一緒に歩いていけるよう支援しています。術前呼吸訓練もご自宅でお一人で実施するのが難しい方もおり、ご家族に協力をお願いしたり、術前の再来日に実施状況を伺ったりしています。

そして当センターで最も大切にしていることは、患者さんに安心して手術を受ける気持ちになっていただくことです。大きな手術を受ける事は、患者さんやご家族にとって大変不安で心配が尽きないと思います。どんな些細なことも、心配事も、ここで聞ける、聞いてもらえると思っただき、安心して手術を受けていただけるよう主治医、麻酔科医師、薬剤師、手術室看護師と協力し、包括的にチームで患者さんを支援していきたいと思っております。



立ち上げワーキングメンバー



支援の様子

お知らせ・報告

C棟 緩和ケア病棟 リニューアルオープン

千葉県がんセンター 副病院長・緩和ケアセンター長 藤里 正視

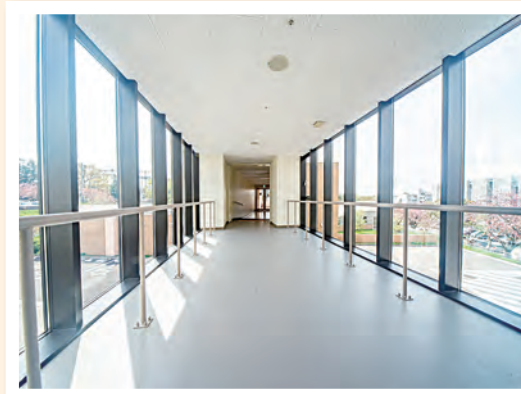
—昨年の新棟オープンの後、改装工事に入っていたC棟 緩和ケア病棟（旧 緩和医療センター）が4月にリニューアルオープンしました。改装は空調設備の更新やスプリンクラー設置、本館との連絡通路の設置などの設備面が中心でしたが、一部内装も手直しされたので気分的にもリフレッシュされて、スタッフも気持ちを新たにオープンの準備を進めてまいりました。

今回のオープンにより当院の緩和ケア病棟の病床数は、本館7階の緩和ケア病棟と合わせて53床（個室41室、3床部屋4室）となり、公立・公的病院では国内最大の病床数（令和2年度 厚生労働省統計との比較）を持つことになりました。病床数が増えたことで、これまでの在宅療養の後方支援病床としての機能だけでなく、例えば長期療養希望者への対応や他院からの患者受け入れなど、より多様な緩和ケアのニーズにも応えていけるようになることが期待されます。

緩和ケア病棟は大きく立派になりましたが、それに負けずにより質の高い緩和ケアを提供できるように、これからもスタッフ一丸となって取り組んでまいります。



C棟 緩和ケア病棟



新棟からの渡り廊下



病室



談話室

初診担当医表

*当センターは予約制となっております。受診される場合は、電話で予約をおとり下さい。
*初めて受診なさる場合は、かかりつけ医など医療機関からの紹介状をお持ち下さい。

2022年4月1日現在

診療科	月	火	水	木	金
肝胆膵外科	岩立 陽祐	賀川 真吾	加藤 厚 石毛 文隆	柳橋 浩男	有光 秀仁
ハイパーサーミア	千葉 聡	千葉 聡	千葉 聡		千葉 聡
食道・胃腸外科	鍋谷 圭宏 (第2・第4) 滝口 伸浩 (第1・第3・第5) 外科 水藤 広	鍋谷 圭宏 早田 浩明 外岡 亨	滝口 伸浩 早田 浩明	鍋谷 圭宏 滝口 伸浩 千葉 聡 加野 将之	加野 将之 水藤 広 黒崎 剛史
消化器内科	傳田 忠道 三梨 桂子 鈴木 拓人 喜多絵美里	傳田 忠道 須藤研太郎 天沼 裕介 杉田 統	三梨 桂子 中村 和貴 喜多絵美里 今関 洋 石垣 飛鳥	傳田 忠道 三梨 桂子 中村 和貴 鈴木 拓人 北川 善康	須藤研太郎 天沼 裕介 北川 善康 今関 洋
呼吸器外科	岩田 剛和		飯笹 俊彦 岩田 剛和		岩田 剛和
呼吸器内科	水野 里子 芦沼 宏典	新行内雅斗 芦沼 宏典		新行内雅斗 水野 里子	芦沼 宏典
乳腺外科	山本 尚人 味八木寿子 吉村 悟志	味八木寿子 羽山 晶子 玉貫 圭甲	中村 力也 羽山 晶子 吉村 悟志	羽山 晶子 玉貫 圭甲	中村 力也 玉貫 圭甲 吉村 悟志
形成外科				徳元 秀樹	徳元 秀樹
婦人科	鈴鹿 清美 海老沢桂子 井尻 美輪	鈴鹿 清美 草西多香子 糸井 瑞恵	田中 尚武	田中 尚武 尚武 清美 草西多香子 (第2・第3・第4・第5) 糸井 瑞恵 (第1・第3)	海老沢桂子 井尻 美輪
泌尿器科	小丸 淳 萩原 和久 井上 裕司	馬場 晴喜 野呂 卓秀 米田 慧	佐藤 陽介 萩原 和久 米田 慧	小林 将行 野呂 卓秀	深沢 賢 井上 裕司
腫瘍血液内科	武内 正博 佐藤 昌靖 丸山 聡	熊谷 匡也 辻村 秀樹 三科 達三	武内 正博 佐藤 昌靖	熊谷 匡也 辻村 秀樹 三科 達三	武内 正博 辻村 秀樹 丸山 聡
脳神経外科	井内 俊彦 堺田 司	(担当医)	井内 俊彦	(担当医)	堺田 司
頭頸科	(担当医)	佐々木慶太 櫻井 利興 森本 侑樹		佐々木慶太 櫻井 利興 森本 侑樹	
整形外科	米本 司 嶋田 博人 木下 英幸	嶋田 博人 萩原 洋子		石井 猛 (第2・第4) 塚西 敏則 (第2・第4)	米本 司 萩原 洋子 木下 英幸
緩和医療科	坂下 美彦				
核医学診療部		小川 和行	久山 順平	久山 順平	小川 和行

電話 予約	●初診・再診予約(患者予約) 月曜日～金曜日 午前9時～午後5時 043-263-4071	●予約変更(患者予約) 月曜日～金曜日 午後1時～午後4時 043-263-4071	●医療機関からの直接予約 月曜日～金曜日 午前9時～午後5時 043-264-5633
------------------	---	--	---

ご案内の交通

JR千葉駅から 所要時間:約25分

千葉中央バス: 誉田駅、鎌取駅、千葉リハビリセンター、大宮団地(星久喜経由)行乗車・千葉県がんセンター前下車
小湊バス: 千葉県がんセンター行乗車・終点千葉県がんセンター前下車

JR鎌取駅から 所要時間:約13分

千葉中央バス: 千葉駅・蘇我駅行乗車・千葉県がんセンター前下車

JR蘇我駅から 所要時間:約16分

千葉中央バス: 鎌取駅行乗車・千葉県がんセンター前下車

松ヶ丘I.Cから

大網街道を大網へ向かって約2km右側

千葉県がんセンター

〒260-8717 千葉市中央区仁戸名町666-2
TEL.043-264-5431 FAX.043-262-8680
<https://www.pref.chiba.lg.jp/gan/>